

芸術科(書道Ⅰ) 学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 2022年 月 日() 第 時限
- 3 実施場所 書道室 (1年生 計 名)
- 4 使用教科書 『書Ⅰ』(光村書店, 令和3年3月検定済)
- 5 単元名 書の現代的意義を考える 一井上有一「噫横川国民学校」の鑑賞を通して―

6 単元設定の理由

生徒はこれまで、日中の古典を中心とした鑑賞学習を行ってきた。個別・具体的な書法分析を行うことには慣れてきたが、学習指導要領に示される「生活や社会における書の効用」を考えるには至っておらず、課題としている。「効用」をどのレベルで捉えるかは問題となるが、高等学校段階では日常的な実用性に留まらず表象性についてまで考えたい。このことをスムーズに実現するためには、漢文や古文で書かれた作品ではなく、生徒が読める口語文で書かれた作品の鑑賞が適切であると考えられる。そこで今回は東京大空襲の戦災を表象した井上有一「噫横川国民学校」を取り上げ、タブレットで詳細に・段階的に作品鑑賞を行い、書の現代的意義を考えることとした。同作品は書かれた内容と、書表現が一致している作品である。作者の感情の発露から、当時の凄惨な状況をも感得し、読み取ることが出来る。鑑賞学習を通し、書表現が単なる伝達・記録に留まらず、瞬間瞬間を表象し、後世に伝え続ける芸術であることを考える単元としたい。

7 単元の目標

- (1) 線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解することができる。[知識及び技能]
- (2) 作品の価値とその根拠および、生活や社会における書の効用について考えることができる。[思考力、判断力、表現力等]
- (3) これまでの鑑賞経験を踏まえて、作品の表現や内容等を詳細に・段階的に分析することができる。[学びに向かう力、人間性等]

8 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解している。	・作品の価値とその根拠および、生活や社会における書の効用について考えている。	・これまでの鑑賞経験を踏まえて、作品の表現や内容等を詳細に・段階的に分析しようとしている。

9 指導計画(全2時間)

- 第1次 漢字仮名交じりの書について知る・・・1時間
第2次 「噫横川国民学校」の鑑賞・・・1時間(本時)

10 本時の目標

- ・鑑賞活動を通して、「噫横川国民学校」の表現や内容を分析することができる。
- ・鑑賞活動で理解したことをもとに、書表現の現代における意義を考えることができる。

11 本時の展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 評価規準	評価方法
導入 (5分)	・本時の目標と流れを確認する。	・全員タブレットの電源を入れさせる。		
展開 (35分)	・井上有一とその書業について知る。	・テレビに表示されるパワーポイントに注目させる。		
	・タブレットに送信された「噫横川国民学校」の作品画像を鑑賞し、まずは作品全体から受ける雰囲気とその理由を考える。 次に、作品を拡大し、部分的に鉛筆でスケッチすることで「線」を追体験し、どのような線か言葉で表す。 さらに、「字形」や「構成」等についても鑑賞し、言葉で表す。	・先入観を避けて鑑賞するため、作品の題名や内容には触れずに鑑賞を始めさせる。 次に、線の流れ、筆圧、遅速などをスケッチによって感得させる。 さらに、各字がどのような形をしているか理解させる。	・線質や字形・構成等、作品の諸要素を自分なりに分析し、言語化できているか。 〔知識・技能〕 〔主体的に学習に取り組む態度〕	行動の観察 記述の分析
	・自分の記述した内容を全体で共有する。 ・作品にどのような言葉が見え、書かれた内容はどのようなものか考える。その上で、作品の釈文を読み、作品の内容について知る。 ・書表現と作品の内容が一致していることを理解し、井上有一の意図したことを考える。	・鑑賞シートに書いた内容を発表させる。 ・作品本文に見える言葉を発表し、内容について考えさせる。その後に、釈文に目を通し、作品の内容について理解させる。 ・鑑賞したことをもとに、作者である井上有一の意図を考えさせる。		

まとめ (10分)	・書表現の現代における意義を考える。 ・次時の予告を聞く。 ・鑑賞シートを提出する。	・書が単なる伝達・記録にとどまらず、瞬間の状況や作者の心情を表象しうることを理解させる。	・現代の生活や社会における書の意義(価値)を考えられているか。 〔思考・判断・表現〕	記述の分析
----------------------	--	--	--	--------------